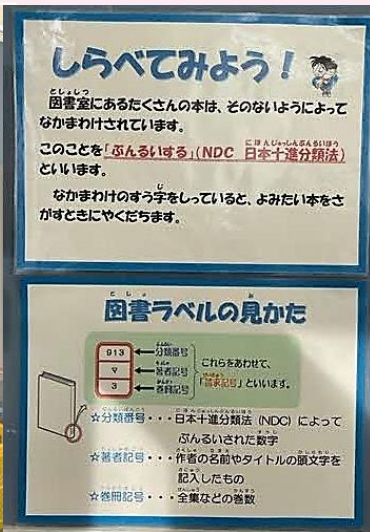


誰でも使いやすい学校図書館（東神楽町立東神楽小学校）



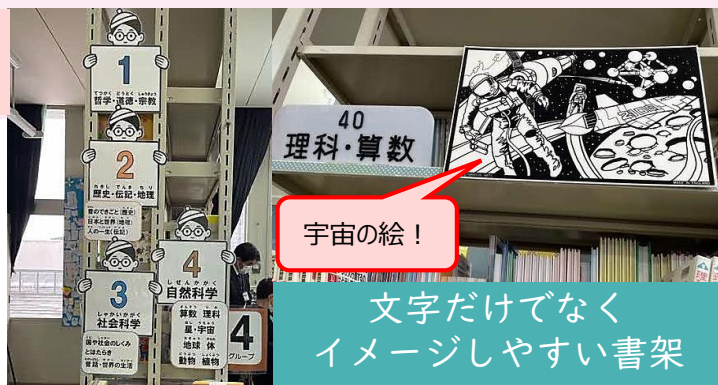
① 学校図書館の使い方を示す

日本の多くの図書館は、「日本十進分類法（NDC）」で分類され、配置されています。小学校のうちからそのルールを示し、図書館の使い方を学んでおくと、1年生でも、読みたい本や知りたい情報を自分で探し出すことができるようになります。

「知りたいことは自分で探し出せる」を体験する学校図書館

② どの書架に何の本があるかひと目でわかりやすい

東神楽小学校には、「図書協力員」（いわゆる学校司書）が配置されており、児童や教諭が使いやすい環境整備を進めています。書架の側面に大きく分類表示がされ、分類にふさわしい絵を掲示することで、どのような本が配架されているか、ひと目でわかります。



③ 各授業等の関連図書を集めたコーナー

東神楽小学校の学校図書館は、決して広い図書館ではありませんが、「アイヌ」「しごと」「秋の本」など、その時々で児童に手に取って欲しい本の棚が目立つように配置されています。今どんな本がオススメなのかは、各学級担任と詳細に打ち合わせ、効果的な配置をすることで、学校図書館の利活用の促進につながる工夫がされています。



関連図書が手に取りやすい